

山口市議会報告



Yamaguchi City Council Report

vol.27

発行責任者 竹中一郎
山口市議会議員

来たるべき災害に備えて

～災害に強い山口市を目指して～

能登の地震から1年が経ちました。阪神淡路大震災からは30年です。30年の間、地震や水害等が毎年のように起こっています。災害が起こることはある意味当たり前のこととして、日々の備えが必要だと、年を新たにして改めて感じています。

令和6年 第5回山口市議会定例会 **質問と答弁**

上下水道事業における耐震化の取組について

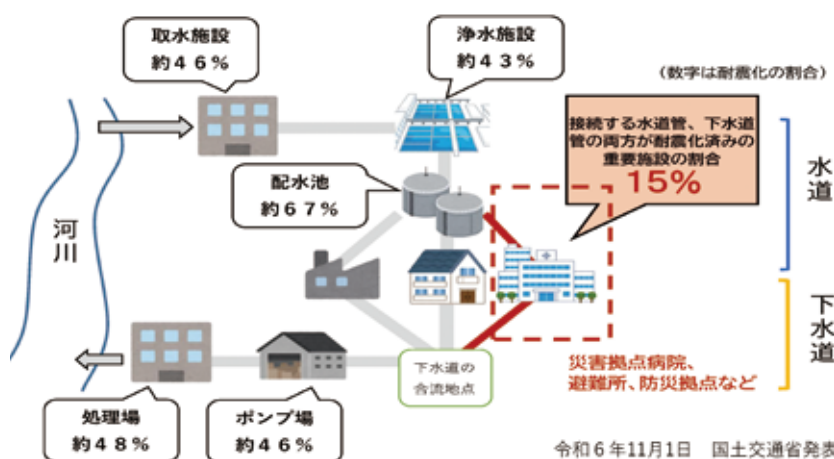
▶質問

大規模な地震災害が発生した際には、上下水道施設に大きな影響が生じることが懸念されるが、上下水道事業における地震災害に備えた耐震化の状況と取組について伺う。

▶答弁

令和5年度末の本市の上下水道事業における耐震化の進捗状況としては、水道事業で管路18.8%、浄水場等構造物55.3%、公共下水道事業で管渠52.2%、処理場やポンプ場等の構造物については70.8%である。経営戦略において設定している令和14年度末の耐震化率の目標値としては、水道事業の管路27%、構造物67%、公共下水道事業の管渠55%、構造物80%を達成できるよう取り組む。

全国の上下水道施設の耐震化状況の緊急点検結果



浸水対策について



浚渫が必要と考えられる問田川(大内地域)

▶質問

豪雨による浸水被害が全国で頻発している中、本市においても毎年道路冠水等の浸水被害や道路・河川の崩壊などの被害が発生している。重要な対策となる河川浚渫について、今年度の取組状況について伺う。また、県河川の浚渫情報も併せて伺う。

▶答弁

河川パトロール等の結果や地元要望、各地域交流センターからの情報などを踏まえ浚渫を実施する河川を決定している。今年度は、宮野の仁保地川、仁保の東川、小鯖の千坊川、平川の吉野川、吉敷の西の浴川等、市内26河川について浚渫を実施する予定としている。県河川については、椹野川をはじめ、大内の問田川、仁保の仁保川、宮野の古甲川、小鯖の小鯖川、平川の九田川、吉敷の吉敷川等、市内合計21河川の浚渫や河川内の木の伐採を実施される予定と聞いている。

Achiro's Eye
気づいたこと感じたこと

国の災害復旧制度、法律名は公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法を用いた災害復旧は有利であり、積極的に活用すべきであると指摘しました。その状況を確認したところ、入札が成立しなかった事例が1件あったので理由を尋ねたところ、河川工事は他の土木工事に比べて難しい工事が多いため、工事が敬遠され、受注者がいなかったことがわかりました。その場合は地方自治法を踏まえ随意契約にて請負者を決定することでしたので、速やかな復旧を要望いたしました。

交通安全対策について

▶質問

大内小学校周辺において「ゾーン30プラス」として区域設定がされたが、その後の効果について、どのように評価しているのか伺う。

▶答弁

大内での「ゾーン30プラス」については、令和6年4月時点で、県内初の試みとして、これまでソフト対策が中心であった「ゾーン30」の取組に加え、「ハンプ」や「狭さく」等のハード対策も施していることから交通事故防止の効果は、更に高まっていると評価している。具体的には、国土交通省が効果検証を行っており、特に、「ハンプ」を設置した大内小学校と農業試験場跡地の間の市道小野氷上線においては、速度超過となる時速30キロ以上で通行する車両の割合が6割程度から3割以下に減少している。また、氷上橋付近に設置した、「ハンプ」と「横断歩道」を組み合わせた「スムーズ横断歩道」でも同様に速度の抑制効果が確認されている。このほか、オレンジのポールで車道幅員を狭くする「狭さく」については、検証のためのデータ数が少なかったこともあり、データ上では目立った効果は確認できていないが、実際には、警察において速度取締りを強化されていることもあり、以前に比べ、速度を落として通行されていることから交通の安全性は向上している状況である。



「ゾーン30」「ゾーン30プラス」

▶質問

今後は「ゾーン30」エリアに限らず、市内の交通安全施設について維持管理していくことが重要と考えるが、現状の取組について伺う。

▶答弁

交通安全施設には、「道路反射鏡」や「路面標示」等、様々あるが、日々、道路パトロールを行いながら、老朽化や破損等を確認した際には迅速に修繕等の対応を行っている。また、市民の方から、指摘や相談をいただいた際においても同様に、現地を確認した上で迅速に対応している。今年度は、吉敷、平川、大歳における、特に「ゾーン30」エリア内において、「車道外側線の引き直し」や「横断歩道のグリーン化」等を行っている。

▶質問

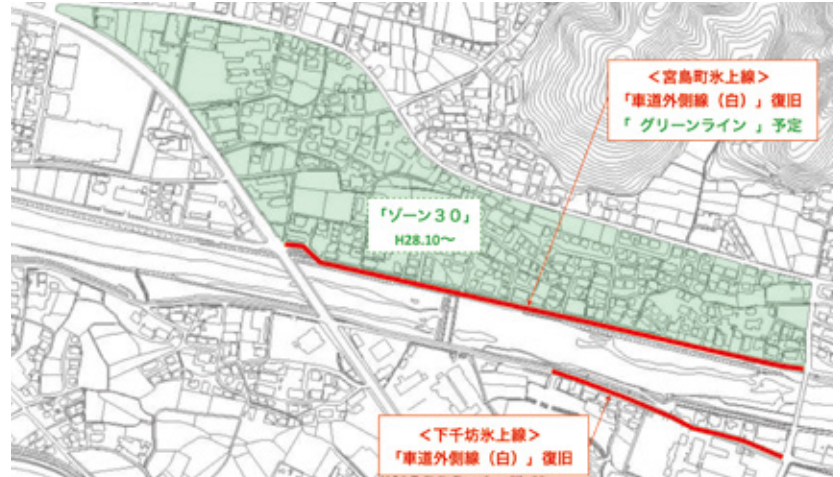
大内の仁保川右岸の川沿いの直線道路だが、白の車道外側線が薄くなっているのに対応すべきではないか。

▶答弁

指摘の市道宮島町氷上線における車道外側線については、これまでのパトロールにおいて不鮮明になっていることを確認しており、今年度、引き直しを行う。また、対岸の仁保川左岸における市道下千坊氷上線も併せて引き直しを行う。加えて、「ゾーン30」エリア内の市道宮島町氷上線については、今後、グリーンラインを整備したいと考えており、現在、大内小学校等と協議を進めている。



引き直しが完了した車道外側線(御堀橋付近)



「車道外側線」復旧等

脱炭素先行地域の取組について

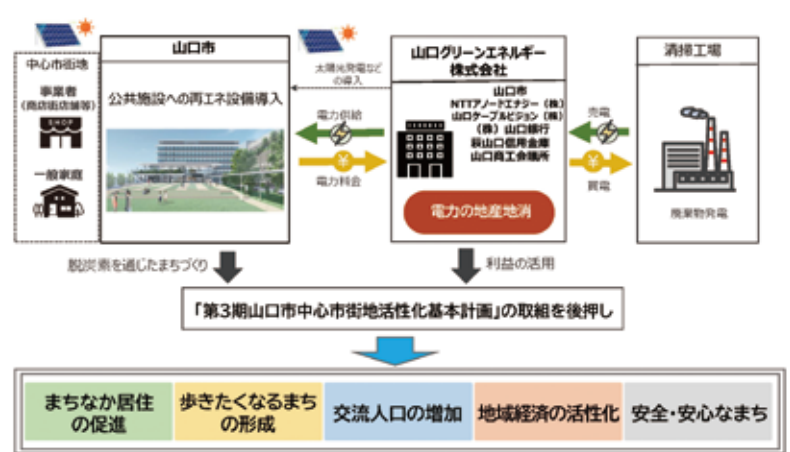
▶質問

脱炭素先行地域の取組について、本市と山口グリーンエネルギー株式会社、それぞれの役割に応じた現在の取組状況と今後の展開について伺う。

▶答弁

本市の役割として省CO₂設備等の導入支援やカーシェアリング等の取組を通じて中心市街地活性化を後押しする。新会社の役割として、電力の地産地消の小売り電気事業を通じて得られた利益を活用した、中心商店街で活用できるエコポイントなどで新たな賑わい創出を目指す。電力供給については、令和8年度までは市公共施設に、その後民間施設に広げることを考えているが、可能な範囲で前倒しすることを新会社とともに検討し、賑わい創出の取組についても中心商店街の皆様の声聞きながらスピード感をもって取り組んでいく。

地域脱炭素先行地域の全体イメージ



【提供:環境政策課】

地域政党 やまぐちの風は、市民の皆様の声の声を第一の信条として活動していることから、市議会での議論について、自身が撮影した画像等と併せて、定例会ごとにわかりやすくお伝えしていくためにつづっているのがこの会報です。是非、ご覧いただき、お気軽にご意見等をお寄せいただければ幸いです。



地域政党 やまぐちの風 **検索**
<http://takenakaichiro.com/>
〒753-0251 山口市大内千坊2丁目16-5



代表
山口市議会議員 **竹中一郎**